

会 議 録

会議の名称		荃崎学園第1回コミュニティ・スクール推進会議		
開催日時		令和5年(2023年)5月10日(水) 開会 14時30分 閉会 16時30分		
開催場所		荃崎中学校 図書室		
事務局(担当課)		荃崎学園等、教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	中嶋 修、稲川誠一、二宮君弘、飯塚康弘、犬田鮎美、星雄太、間中和美 荃崎中学校：校長 小林 力、教頭 金子 仁、教務主任 佐野賢一 荃崎二小学校：校長 渡部史恵、教頭 鈴木 剛、教務主任 宮本卓也 荃崎三小学校：校長 小林浩子、教頭 齋田美代子、教務主任 小関洋介		
	その他	教育局長 吉沼正美、次長 坂田博之、 教育総務課 課長 山岡めぐみ		
	事務局	生涯学習推進課 課長 澤頭由紀子、係長 飯島遊、社会教育主事 渡邊亮太、社会教育主事 村上和宏、地域連携教育指導員 酒井和宏		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	2名
非公開の場合はその理由				
議題		学園・学校運営方針(グランドデザイン)説明について		
会議録署名人		確定年月日	年 月 日	
会議次第	1 開 会 2 選任通知書の交付(吉沼教育局長より代表者へ) 3 挨拶 吉沼教育局長代読 4 委員の自己紹介・教育局職員紹介 5 つくば市コミュニティ・スクールについて(社会教育主事 渡邊) 6 座長・副座長の選出 座長：中嶋 修 委員 副座長：稲川誠一 委員 7 協 議 (1) 学校運営の基本方針の説明 ① 荃崎学園グランドデザイン説明(荃崎中 小林力委員) ② 荃崎第二小学校グランドデザインの説明(渡部史恵委員) ③ 荃崎第三小学校グランドデザインの説明(小林浩子委員) ④ 荃崎中学校グランドデザインの説明(小林力委員)			

⑤ 質疑応答または感想

- ・コロナ禍になってさらに地域との関係が薄くなっている。行事も縮小している。（犬田委員）
- ・小中一貫教育に魅力を感じ引っ越してきた。小中一貫教育として同じ経営であってほしい。（星委員）
- ・運動会や体育祭などの学校行事を時間短縮せず、1日がかかりで取り組みたい。（二宮委員）
- ・子供たちの挨拶がよくなった。学ぶ力を優先することと、地域との関わりをどのように結びつけるか。（間中委員）
- ・生徒の読書量が少ない。夏休みにおける青少年を育てる市民の会荃崎支部の夏季休業中における「キャンドルナイト」の取組は、読書をはじめ家で勉強する習慣づくりのきっかけになるのではないか。

（小林力委員）

→(1)の説明を受け、基本方針が参加者一同賛同される。本方針で学校運営をしていく。

(2) 地域の活動の紹介

- ① 「ザリガニをとる、食べる」活動。川や沼がある地域として取り組んでいる。ザリガニは一つの活動で、子供たちとともに地域に眠っている宝を発掘したい。（飯塚委員）
- ② 青少年を育てるつくば市民の会荃崎支部、通学路の安全を守る会などをコミュニティ・スクールの活動につなげていきたい。（稲川委員）

(3) 学校の教育活動の様子を紹介

- ① 各校の教育活動の様子を紹介（各校の教務主任）
- ② 質疑応答または感想
 - ・子供たちが自ら考え行動させる取組は、とてもよい。（二宮委員）
 - ・学校でも読書の機会が多くあるといい。（星委員）
 - ・読書から自分の考えを書く作文力につなげたい。（犬田委員）

(4) 熟議

テーマ「自ら学び豊かな人間性とたくましさを備え 未来を拓く児童生徒の育成」

A グループ（宮本委員発表）

- ・自分の考えを伝えること、挨拶することといった自己表現に課題がある。
- ・親子活動、挨拶運動など行事やチャレンジする機会をつくっていきたい。

B グループ（齋田委員発表）

- ・自己肯定感を高めたい。まずは児童がしたことを受け止め、ほめる。「いいトライ」が合い言葉。ゴミ拾い等（地域でのボランティア活動やクリーン活動）の実践をポイント制にする。スタンプラリーのようなゲーム感覚で取り組めるとよい。

C グループ（金子委員発表）

- ・ 苦勞してでも成し遂げたい目標をいかにもたせるか。
- ・ 豊かな人間性を育む風土をもった地域と連携し、農家や工場など職場体験によるキャリア教育を充実させたい。

(5) その他

- ・ 推進会議の今後の予定について（金子委員）

8 閉会

令和5年度第1回荃崎学園コミュニティ・スクール 推進会議

日時：令和5年5月10日（水）

14：30～

場所：荃崎中学校 図書室

次 第

1 開 会

2 選任通知書交付

3 挨拶

4 説明事項

つくば市のコミュニティ・スクール導入について

5 座長・副座長の選出

6 協 議

(1) 学校運営の基本方針について

(2) 学校の教育活動や地域の活動事例の紹介

(3) その他

・コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について

7 閉 会

令和5年度 荃崎学園コミュニティ・スクール推進会議
(第1回：5月10日 水曜日) 受付名簿

番号	委嘱の区分	氏名	よみがな	所属・役職	出席	欠席
1	(1) 児童・生徒の保護者	二宮 君弘	にのみや きみひろ	荃崎中学校PTA 会長	出席	欠席
2	(1) 児童・生徒の保護者	小池 由紀子	こいけ ゆきこ	荃崎中学校PTA 副会長	出席	欠席
3	(1) 児童・生徒の保護者	飯塚 康弘	いいつか やすひろ	荃崎学園地域学校コーディネーター 荃崎第二小学校PTA 書記	出席	欠席
4	(1) 児童・生徒の保護者	犬田 結美	いぬた あゆみ	荃崎第二小学校PTA 書記	出席	欠席
5	(1) 児童・生徒の保護者	小澤 広	おざわ ひろし	荃崎第三小学校PTA 会長	出席	欠席
6	(1) 児童・生徒の保護者	星 雄太	ほし ゆうた	荃崎第三小学校PTA 副会長	出席	欠席
7	(2) 地域住民	稲川 誠一	いながわ せいいち	荃崎地区区会連合会顧問 荃崎第二小学校評議員	出席	欠席
8	(2) 地域住民	倉本 茂樹	くらもと しげき	荃崎第三小学校評議員	出席	欠席
9	(3) 各学校長・教職員	小林 力	こばやし ちから	荃崎中学校 校長	出席	欠席
10	(3) 各学校長・教職員	金子 仁	かねこ ひとし	荃崎中学校 教頭	出席	欠席
11	(3) 各学校長・教職員	佐野 賢一	さの けんいち	荃崎中学校 教務主任	出席	欠席
12	(3) 各学校長・教職員	渡部 史恵	わたべ ふみえ	荃崎第二小学校 校長	出席	欠席
13	(3) 各学校長・教職員	鈴木 剛	すずき たけし	荃崎第二小学校 教頭	出席	欠席
14	(3) 各学校長・教職員	宮本 卓也	みやもと たくや	荃崎第二小学校 教務主任	出席	欠席
15	(3) 各学校長・教職員	小林 浩子	こばやし ひろこ	荃崎第三小学校 校長	出席	欠席
16	(3) 各学校長・教職員	齋田 美代子	さいた みよこ	荃崎第三小学校 教頭	出席	欠席
17	(3) 各学校長・教職員	小関 洋介	こせき ようすけ	荃崎第三小学校 教務主任	出席	欠席
18	(4) 学識経験者	中嶋 修	なかじま おさむ	荃崎中学校元校長 荃崎中学校 学校評議員	出席	欠席
19	(5) 関係行政機関の職員	間中 和美	まなか かずみ	荃崎第三小元PTA会長 谷田部相談センター	出席	欠席
20	(6) 教育委員会が適当と認める者				出席	欠席

つくば市コミュニティ・スクール推進会議開催要項

(開催)

第1条 教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第47条の5に規定する学校運営協議会の設置及び運営に関する検討を行うため、指定する小中一貫型小学校・中学校（つくば市立小学校、中学校及び義務教育学校管理規則（昭和62年つくば市教育委員会規則第8号）第5条に規定する小中一貫型小学校・中学校及び義務教育学校において、コミュニティ・スクール推進会議（以下「推進会議」という。）を開催する。

(定義)

第2条 この要項において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) コミュニティ・スクール 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5に規定する学校運営協議会をいう。
- (2) 学園等 つくば市立小学校、中学校及び義務教育学校管理規則第5条に規定する小中一貫型小学校・中学校及び義務教育学校をいう。

(検討事項)

第3条 推進会議は、次に掲げる事項を検討する。

- (1) コミュニティ・スクールの設置及び運営に関する事項
- (2) 前号に掲げるもののほか、コミュニティ・スクールの推進に関し必要な事項

(構成)

第4条 推進会議は、学園等ごとに、次に掲げる者のうちから、教育委員会が選任した者30人以内をもって構成する。

- (1) 当該学園等に在籍する児童又は生徒の保護者のうちから、学校長が推薦する者
 - (2) 学園等の所在する地域の住民のうちから、学校長が推薦する者
 - (3) 各学校長並びにその他の教職員
 - (4) 学識経験者
 - (5) 関係行政機関の職員
 - (6) 前各号に掲げる者のほか、教育委員会が適当と認める者
- (開催期間)

第5条 推進会議は、学園等ごとにおおむね1年間開催する。ただし、コミュニティ・スクールを設置したときは、その日の前までとする。

(座長等)

第6条 推進会議に座長及び副座長を置く。

- 2 座長及び副座長は、構成員の互選により定める。
- 3 副座長は、座長に事故があるときは、座長となる。

(庶務)

第7条 推進会議の庶務は、学園等及び教育局生涯学習推進課において処理する。

(補則)

第8条 この要項に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この要項は、令和4年5月1日から施行する。

令和5年度

荻崎学園グランドデザイン



みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園
～自己実現できる学校・みんなで支え合い・みんなが生き生きとした学校～



学園目標 自ら学び 豊かな人間性とたくましさを備え 未来を拓く児童・生徒の育成

- 【荻崎中】 主体的に学び、人とのかかわりを大切にする、心身ともにたくましい生徒の育成
- 【第二小】 夢と希望の実現に向けて、心豊かにたくましく生きる児童の育成
- 【第三小】 自ら考え、進んで行動し、心やさしく、たくましい児童の育成

学園組織目標

- ❖ 個別最適な学びと協働的な学びをマネジメントし、学力向上を図る。
- ❖ 互いを認め合い、自己肯定感を高める教育を推進する。
- ❖ 保護者・地域と連携・協働し、「地域とともにある学園づくり」を推進する。

< 学ぶ力 >

※ 個別最適な学びと協働的な学びの推進

- ・ 「問い」から始まる学びの充実
- ・ 思考力、表現力を高める指導の工夫
- ・ 1人1台端末の効果的活用
- ・ 家庭学習の手引きの活用
- ・ 読書活動の推進
- ・ 多様な学びの場の推進

< 豊かな人間性 >

※ 自己肯定感を高める教育の推進

- ・ 異学年交流活動の推進
- ・ ルールメイキングの推進
- ・ あいさつ、黙働清掃の推進
- ・ キャリア教育の推進
- ・ 考え議論する道徳の推進
- ・ 保幼小中連携の充実

< 健康・安全・体力 >

※ 自己管理能力の育成

- ・ 食育の推進
- ・ 心の健康の保持
- ・ 合同避難訓練、地域防災会議の充実
- ・ 感染症対策の推進
- ・ 救命教育の推進
- ・ 体力テスト記録の活用
- ・ 体育的交流活動の推進



児童・生徒の学びの姿

【教職員の資質向上】 マネジメント力（授業・学級経営・学校運営）の向上、働き方改革・部活動改革の推進、研修の充実、コンプライアンスの徹底

第1学年～第4学年（基礎・基本習得期）

- ・ 学びの基本を身に付ける
- ・ 相手の気持ちを考えて行動する
- ・ 楽しく運動し、健やかな身体をつくる

第5学年～第7学年（基礎活用・応用期）

- ・ 主体的な学びを自覚する
- ・ 自分のよさを生かして行動する
- ・ 運動に親しみ、体力を高める

第8学年～第9学年（進歩・発展期）

- ・ 未来を拓く学びを自覚する
- ・ 地域社会に目を向けて行動する
- ・ 自己管理能力を高める

令和5年度 荊崎中学校グランドデザイン

本県の教育目標

- ひとりひとりの能力を開発し
豊かな人間性をつちかう
- じょうぶな身体をつくり
たくましい心を養う
- 郷土を愛し協力しあう心を育てる

【学校教育目標】

主体的に学び
人とのかかわりを大切にする
心身ともにたくましい 生徒の育成

本市の教育大綱

- 「教え」から『学び』へ
- 「管理」から『自己決定』へ
- 「認知能力偏重」から
『非認知能力の再認識』へ

めざす学校像

- ・楽しく、感動のある学校
- ・安全、安心に生活できる学校
- ・教育環境の整ったきれいな学校
- ・保護者、地域住民に信頼される開かれた学校

めざす生徒像

- ・共に聴き合い、学び合える生徒
- ・自分で考え判断し、行動できる生徒
- ・心豊かで、礼儀正しい生徒
- ・心身を鍛え、がんばりのきく生徒
- ・人のために奉仕できる生徒

めざす教師像

- ・明るく活気に満ちた教師
- ・内面を聴く、感受性豊かな教師
- ・個性豊かで指導力のある教師
- ・協働し、柔軟で向上心のある教師
- ・常に研修に努め、学び続ける教師

組織目標

- 生徒が自分の成長を実感できる授業（授業力磨き）
- 一人一人を認め、お互いが成長できる学級（学級力向上）

主体的な学びを展開する生徒の育成

◆主体的・対話的で深い学びの授業づくり

- ・問いが生まれる授業の導入
- ・学習の基盤となる基礎力の徹底
- ・読解力や論理的思考力を高める指導の展開
- ・対話を通じて養う合意的形成力
- ・「考えさせられる授業」から「考える授業」へ
- ・ICT機器を活用した個別最適な学びの推進
- ・小中一貫教育による系統的な学びの推進
- ・外部人材や地域資源の積極的な活用

自ら学ぶ

思いやりある生徒の育成

◆個が認められ、生かされる学年・学級経営

- ・『命』を大切にする教育
- ・グッドモデルの称賛
- ・自己有用感を高める学級経営
- ・「考え、議論する」道徳授業の積み重ね
- ・互いに認め合い、支え合い、高め合う学級経営
- ・明るいあいさつ、人の役に立つ行動
- ・教育的ニーズを意識した特別支援教育
- ・人権意識を育てる環境整備

自らを生かす

主体的に行動できる生徒の育成

◆自治的能力や社会力の育成

- ・生徒会、実行委員会制度の進化と充実
- ・自分達の課題に主体的に向き合う態度の育成
- ・クリティカルな視点から生まれる改善策
- ・9年間を意識した規範意識の醸成（ルールメイク）
- ・自己判断力を育てる防災教育
- ・系統性を生かした9年間のキャリア形成

自らを律する

安心・安全な学校づくり

◆自分の命を自分で守る積極的な取組

- ・積極的な生徒指導の展開
- ・地域と共に歩む荊崎中の創造
- ・SOSの出し方に関する教育
- ・不登校生徒の居場所の確保（校内フリースクール）
- ・共に見て、触って、揺らして確認する安全点検
- ・緊急時に備えた避難所設営の経験

共に学び高め合う教師集団

◆チーム荊崎としての意識の高揚

- ・授業力の向上に努める授業研究とOJT研修の推進
- ・SC、SSW等との緊密な連携
- ・チームを意識した校務の運営
- ・コンプライアンス意識の高揚につながる同僚性の構築

魅力ある開かれた学校

◆地域の灯台としての自覚

- ・中学校生活体験による中1ギャップの防止
- ・コミュニティスクールに向けての準備
- ・地域の教育資源の積極的な発掘と活用
- ・防災、減災を意識した地域の灯台としての役割

働き方改革の推進

- ・地域と学校の協働活動による文化・スポーツ活動→荊崎地区文化・スポーツクラブ（KCSC）
- ・クリティカルな視点で見つめ、新たに創造する荊中スタイルの構築
- ・対時間効果と生徒目線を意識した業務内容の改善と

令和5年度 荃崎学園つくば市立荃崎第二小学校の教育

県の教育目標

- ・ひとりひとりの能力を開発し豊かな人間性をつちかう
- ・じょうぶな身体をつくりたくましい心を養う
- ・郷土を愛し協力しあう心を育てる

本校の教育目標

夢と希望の実現に向けて、心豊かにたくましく生きる児童の育成

つくば市が目指す学園・学校像

みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園
～自己実現できる学校・みんなで支え合い、みんなが生き生きした学校～

荃崎学園の教育目標

・自ら学び 豊かな人間性とたくましさ
を備え 未来を拓く児童・生徒の育成

校訓

かしこく なかよく たくましく

目指す学校像

- 学びとふれあいのある楽しい学校
- 児童の可能性を伸ばせる学校
- 安心・安全で地域に根ざした学校

目指す児童像

- ㊦ よく考え、進んで学ぶ児童
- ㊦ 思いやりをもち、協力できる児童
- ㊦ 安全に心がけ、体をきたえる児童

目指す教師像

- 人間性豊かで、信頼される教師
- 明るく児童への愛情のある教師
- 指導力があり積極性のある教師

学校経営の理念 『一人一人を大切にす り 笑顔あふれる学校づくり』

組織目標

学ぶ楽しさを味わわせる授業づくりを通して、自ら学ぶ子を育てる。
よさを認め合う集団づくりを通して、自他を大切にす り 子を育てる。

《確かな学力の育成》

- 主体的・対話的で深い学びのある授業づくり
 - ・思考力・表現力を高める指導の工夫
 - ・1人1台端末の効果的活用
 - ☆算数の授業が分かる・楽しいと答える児童 90%
- 自主的な家庭学習の習慣化
 - ・「家庭学習の手引き」の活用
 - ・読書活動の充実
 - ☆家庭学習(10分×学年+10分)している児童 70%
 - ☆年間50冊以上読書した児童 100%
- 特別支援教育の充実
 - ・ユニバーサルデザインの授業
 - ・個別のニーズに応じた指導・支援
 - ☆学校の授業は分かりやすい 90%

《豊かな心の育成》

- よさを認め合える、よさを発揮できる人間関係づくり
 - ・学級経営の充実
 - ・児童会活動の活性化
 - ☆自分にはよいところがあると言える児童 85%
 - ☆みんなの役に立っていると言える児童 70%
 - ☆夢や希望をもっている児童 85%
- 集団(社会)の一員としての自覚の醸成
 - ・元気なあいさつの奨励
 - ・ルールメイキングの推進
 - ☆進んであいさつをしている児童 95%
- 道徳教育の充実と人権教育の推進
 - ・考え議論する道徳の推進
 - ・自分も他人も大切にする児童の育成
 - ☆思いやりをもって生活している児童

《健やかな体の育成》

- 命の大切さを基盤とした健康な心と体づくり
 - ・体育的行事への積極的参加
 - ・健康的な体づくりの習慣の確立
 - ・養護教諭による保健指導
 - ☆体育的行事に意欲的に取り組んでいる児童 80%
 - ☆早寝・早起き・朝ご飯を守って生活している児童 85%
- 児童の危機回避能力を高める保健安全指導の充実
 - ・学校生活における保健安全指導
 - ・登下校の交通指導
 - ・交通安全教室
 - ・避難訓練
 - ☆安全に気を付けて生活している児童 90%

《家庭・地域との連携》

- 安全・安心、地域とともにある学校づくり
 - ・荃崎学園CS推進会議
 - ・教育活動の情報発信(便り・HP)
 - ・緊急メール情報配信
 - ・地域連携防災会議
 - ・学校支援ボランティアの有効活用
 - ☆学校HP更新:週5回以上
- 保幼小中の連携・交流
 - ・相互授業参観
 - ・中学校生活体験学習
 - ・保幼小交流活動
 - ☆保幼小中交流活動 年5回以上

研究主題 根拠を基に筋道を立てて考え、表現する力を育てる
算数科学習指導の在り方

教職員の資質・能力の向上
・若手教員育成 ・コンプライアンス意識の醸成 ・働き方改革の推進

令和5年度 荊崎学園つくば市立荊崎第三小学校グランドデザイン

【茨城県教育目標】

- ひとりひとりの能力を開発し豊かな人間性を培う
- しようぶな身体をつくりたくましい心を養う
- 郷土を愛し 協力しあう心を育てる

【荊崎学園目標】

自ら学び 豊かな人間性とたくましさを備え 未来を拓く児童・生徒の育成

【つくば市の目標】

- みんなが幸せを実感できる
学園・学校・幼稚園



【学校教育目標】

自ら考え、進んで行動し、心やさしく、たくましい児童の育成

【校訓】

かしこく(知) なかよく(徳) たくましく(心と体)

【組織目標】

- 「学びに向かう力」を育む授業づくり
- 一人一人が自己決定し、認め合い高め合う集団づくり



荊崎三小

目指す学校像

- 子どもたちの笑顔があふれる学校
- 教職員が元気であり、働きがいのある学校
- 家庭地域と協働し、相互に教育力を高め合う学校

目指す児童像

- 主体的に生き生きと学びに向かう児童
- 思いやりのある児童
- たくましい心と体で、元気に生活する児童
(児童の姿、学校評価、学校生活アンケート)

目指す教師像

- 自己の使命を深く自覚し、研修に励む教師
- 人間性豊かで、子どもの気持ちがわかる教師
- 心身共に健康で、実践力のある教師
(働き方改革、OJT研修、教員評価の充実)

知 (「学びに向かう力」を育む授業づくりの推進)

- 1 主体的対話的な深い学びを実現する授業改善
 - ・基礎・基本の確実な習得と学習規律の確立
 - ・校内研修の充実(単元計画の工夫による授業の質的向上)
 - ・学びの系統性、連続性の重視(小中一貫教育)
 - ・課題と話し合いの視点の明確化、見直しと振り返りの充実
 - ・ファシリテーターとしての資質向上(役割の具現化)
 - ・地域の教育資源の有効活用
- 2 個別最適な学びと協働的な学びの推進
 - ・学び方の工夫(指導の個別化と学習の個性化)
 - ・一人一台端末の有効活用
 - ・課題解決に向けた協働的な学び合い
- 3 家庭学習との相互補完
 - ・自ら学ぶノートの充実(教師のコメントサポート)

徳 (円滑な人間関係の醸成を図り、一人一人が自己決定し、認め合い高め合う集団づくりの推進)

- 1 規範意識の高揚
 - ・基本的な生活習慣の確立(時を守り、場を清め、礼を正す)
 - ・校則をはじめとする、きまり等の積極的見直し
- 2 心の教育の充実
 - ・考え、議論する道徳授業の推進
 - ・いじめ見逃しゼロを目指す相談体制の構築
 - ・発達段階に応じた人権教育の実施
- 3 自己肯定感を育む教育の推進(認められる場の設定)
 - ・多様な考えを大切に特別活動の充実
 - ・挑戦が称賛される学級経営の充実
 - ・保幼小中の連携による一貫教育の充実と異学年交流の活性化
 - ・家庭教育との連携、地域・外部人材との積極的な関わり

心・体 (自己管理能力を高め、望ましい生活習慣の定着と体力づくりの推進)

- 1 体力・運動能力の向上(重点:投力、柔軟性)
 - ・体力向上プログラムの実施
- 2 健康、安全、防災教育の充実
 - ・生活安全、交通安全、災害安全、情報
- 3 特別支援教育の充実
 - ・コーディネーターを核としたチーム支援の推進
 - ・配慮を要する児童への共通理解と合理的配慮
 - ・通常の学級における指導の充実
- 4 安全安心な教育環境の整備の推進
 - ・感染症を予防する生活様式の確立
 - ・地域と連携した登下校の見守りの充実

家庭・地域との協働関係を大切にした 信頼される開かれた学校づくり

1 積極的な情報公開と運営面での継続的改善

- ・学校公開、HP、学園・学校・学年便りの充実
- ・学校評価、教員評価でのPDCAサイクルの充実
- ・学校評議員会の積極的運営

2 地域教育資源の積極的活用

- ・地域コーディネーターの位置づけ
- ・地域交流室の積極的な運営と人材発掘
- ・地域の人的物的資源の活用

3 校内コンプライアンスの確立

- ・ボトムアップ型研修の充実
- ・研修会への外部人材の導入
- ・良好な人間関係、職員室経営の充実

4 働き方改革の推進

- ・校務の効率化(ICT活用、業務削減)
- ・教材、教具、ワークシートの共有
- ・地域人材・外部団体の効果的活用

会 議 録

会議の名称		荃崎学園第2回コミュニティ・スクール推進会議	
開催日時		令和5年（2023年）9月12日（火） 開会 14時30分 閉会 16時30分	
開催場所		荃崎第二小学校 コンピュータ室	
事務局（担当課）		荃崎学園等、教育局生涯学習推進課	
出席者	委員	中嶋 修、稲川誠一、飯塚康弘、犬田鮎美、間中和美、 倉本茂樹、小池由紀子、小澤 広、 荃崎中学校：校長 小林 力、教頭 金子 仁、 教務主任 佐野賢一 荃崎二小学校：校長 渡部史恵、教頭 鈴木 剛、 教務主任 宮本卓也 荃崎三小学校：校長 小林浩子、教頭 齋田美代子、 教務主任 小関洋介	
	その他	傍聴者 1名	
	事務局	生涯学習推進課 課長 澤頭由紀子、 社会教育主事 渡邊亮太、社会教育主事 村上和宏、地域連 携教育指導員 酒井和宏、地域連携教育指導員 小島健	
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数 1名
非公開の場合はその理由			
議題		コミュニティ・スクールとして、地域とともに児童生徒に身に付けさせていきたい力	
会議録署名人		確定年月日	年 月 日

会議 次第	1 開 会
	2 協 議
	<p>(1) 第1回会議内容の確認</p> <p>(2) 学園の教育活動について</p> <p>① 各校の教育活動の様子を紹介（各校の教務主任）</p> <p>② 質疑応答または感想</p> <p>○各校とも地道なところから取り組んでいてとてもよい。ただ、違ったアプローチからもできるのではないか。（飯塚委員）</p> <p>○学校評価アンケートで、保護者の評価は比較的高い一方、児童の評価が低いのはなぜか。（倉本委員）</p> <p>○児童の場合、本当はできているが謙遜して評価する傾向がある。 (小関委員)</p> <p>○茎中の教科ごとのアンケートは分かりやすい。継続して欲しい。 (小池委員)</p> <p>○学校と地域の双方が、それぞれの状況を理解し合えている。今後は具体的に取り組む活動について考えていきたい。（稲川委員）</p> <p>○楽しいから学校に行く。そんな学校であってほしい。学力面をはじめ、具体的な子供の姿や数値をもとにすることで話合いが充実する。9年生で学力が伸びている。まさに教育の成果である。7年生に上がる時点での向上を望みたい。（中嶋委員）</p> <p>(3) 熟議</p> <p>テーマ「コミュニティ・スクールとして、地域とともに児童生徒に身に付けさせていきたい力」</p> <p>○A グループ（鈴木委員発表）</p> <p>「地域愛」をもとに「自分で考え行動できる力」「困難を乗り越える力」「防災力」を身に付けさせたい。また、これらを結びつける「コミュニケーション力」を育成する。町探検、世代間の交流活動の充実の他、防災力を高めるために、通学路危険箇所マップの活用、防災倉庫備品の活用、サバイバル体験など地域とともに取り組みたい。</p> <p>○B グループ（齋田委員発表）</p> <p>「地域を知り、考え行動する力」が必要である。地域の事例は、生きた教材になる。「地域の人、地域の課題」を知り、「地域と関わる力」、「助け合う力」を育成する。つくスタが中心になる。5年の防災マップ、6年のキャリア教育において、聞く・見る・体験する実体験の活動を地域の人たちの協力を得て取り組みたい。</p> <p>○C グループ（金子委員発表）</p> <p>「災害時の危機対応力」を身に付けさせたい。地域防災として、地域を守る意識、ボランティア精神が必要であり、「地域愛」を育むこ</p>

- とが重要である。そのためにも様々な人と「コミュニケーション力」「関わる力」を身に付けさせたい。まずは、「相互に知り合う」ことが必要である。清掃活動など地域とともに行う行事に取り組みたい。
- 三つのグループの発表に共通するのは「地域をよく知る」「防災」。これを具体的に考えていきたい。（倉本委員）
 - 小学校の町探検は、本当の意味での地域を知ることにつながっていないのではないか。近所の人知っているが、少し離れると知らない人ばかり。学年間も同じ。「お互いを知る」という機会を設けることから始めなければ、CSとしての取組の効果は薄いだろう。（小林力委員）
 - 「防災」の取組を通して「地域愛」を育むか、「地域愛」を育みながら地域の「防災」を学んでいくかになると思う。この二つを両輪にして取り組めるのではないか。（飯塚委員）
 - 自分たちの子供の時代と今の地域はだいぶ変わってきている。「昔はよかった」ではなく、今の地域の姿を今の子供たちの目線で捉えて、つくっていくのも一つ。子供たちが自ずと自分で道を切り拓くような教育が重要ではないか。（小澤委員）
 - 「地域愛」「防災」をキーワードに取り組んでいきたい。
(金子委員)

(4)その他

- ・推進会議の今後の予定について（小林力委員）

3 閉会

令和5年度第2回荃崎学園コミュニティ・スクール 推進会議

日時：令和5年9月12日（火）

14：30～

場所：荃崎第二小学校 コンピュータ室

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 第1回会議内容の確認

4 これまでの学園の教育活動について

5 熟 議

テーマ

「荃崎学園において、地域とともに児童生徒に身に付けさせたい力とは」

6 閉 会

第2回荊崎学園コミュニティー・スクール(CS)推進会議座席表

ホワイトボード

モニター

中嶋座長 稲川副座長

	中嶋 修			
小林 力		二宮 君弘	倉本 茂樹	間中 和美
金子 仁		小池 由紀子	小林 浩子	小澤 広
	佐野 賢一		齋田 美代子	星 雄太
			小関 洋介	

	稲川 誠一			
渡部 史恵		飯塚 康弘		
鈴木 剛		犬田 鮎美		
	宮本 卓也		生涯学習 推進課	

傍聴席

入口

会 議 録

会議の名称		荃崎学園第3回コミュニティ・スクール推進会議		
開催日時		令和6年(2024年)2月6日(火) 開会9時00分 閉会11時00分		
開催場所		荃崎第三小学校 図書室		
事務局(担当課)		荃崎学園等、教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	中嶋委員、稲川委員、倉本委員、間中委員、小池委員 小澤委員、星委員 荃崎中 : 小林(力)校長、金子教頭 荃崎二小: 鈴木教頭 荃崎三小: 小林(浩子)校長、齋田教頭		
	その他	傍聴者 0名		
	事務局	生涯学習推進課: 色川課長補佐、飯島係長、渡邊社会教育主事、酒井地域連携教育指導員 小島健地域連携教育指導員		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0名
非公開の場合はその理由				
議題		地域に生きる児童生徒を育てるための手立て ～防災教育を中心に～		
会議録署名人		確定年月日	年	月 日
会議次第	1 開 会			
	2 協 議			
	(1) 第2回会議内容の確認			
	(2) 学校評価アンケート結果について			
	① 各校の学校評価アンケート結果について説明(各校の教頭)			
	② 質疑応答または感想			
	○地域としては特に登下校の見守り、防犯安全面で協力させていただいている。(稲川委員)			
	○三小の「三つの楽しさ」とは具体的にどのようなことか。 (倉本委員)			
	○「学ぶ楽しさ、仲間とみがき合う楽しさ、やりぬく楽しさ」です。 (齋田委員)			
	○地域を歩き調べたことを発表する学習活動が素晴らしい。本学園のテーマに関わる大事な学習だと思う。 (小澤委員)			
	○各校の評価結果だけでなく、全国との比較なども取り入れて学園の児童生徒について共通認識を図ることが重要だろう。(星委員)			
	○子供たちががんばっている様子が分かった。一方、そのがんばりが保護者に伝わっていないようだ。今後、伝え方を工夫してほしい。 (間中委員)			

○「先生たちが子供たちと遊ぶ時間を設ける」ことについては、先生たちが業務に追われるのではないか。先生たちが疲弊しては意味がない。先生たちが輝けば、子供たちも輝く。そんな取組を皆さんとつくっていききたい。（小澤委員）

○安心・安全な学校に対する評価が高く、学校の大原則としてありがたい。また、子供たちの主体的な活動が実践されている。今後、校外にも活動を広げていくのがこのCSの役割になっていく。「先生たちが子供たちと遊ぶ時間を設ける」ことは非常によい取組と思う。先生が子供と接する時間を確保することを最優先すべきである。自己肯定感を高めるには、子供たちががんばっていることを認めることであり、行事や活動を通して育んでいきたい。家庭学習が共通の課題となっているが、CSとしても保護者の協力を視野に入れ取り組んでいきたい。学校評価アンケートについては、CSとして共通項目を設定して取り組み、一層の効果を図っていききたい。

（中嶋委員）

(3) 熟議

テーマ「地域に生きる児童生徒を育てるための手立て～防災教育を中心に～」

○二小（鈴木委員・稲川委員発表）

①縦割り班による学区のウォークラリー

- ・地域の防災設備（消防小屋・防火水槽等）、危険箇所をはじめ、史跡、地域産業等をポイントに設定。
- ・コロナ禍前の二小祭で実施していた、保護者や地域の皆さんによる“出店”を地域に広げるイメージで展開する。

②小学生を対象として

◇緊急時についての家庭での話合い

- ・「津波てんでこ」の教訓に学ぶ。

◇「フックン船長と学ぶ防災動画」の活用

- ・低学年の防災学習として視聴させたい。

③中学生を対象として

◇避難所における担い手となる知識・技能の習得

- ・地域の人たちとともに学ぶ。
- ・部活動の組織力を生かす。

○三小（齋田委員発表）

①地域を知る。

◇危険箇所を知る。

- ・学校全体：ゲーム感覚で取り組む
- ・登校班：子供たちで確認（上級生が下級生に）

- ・新1年生：4月の保護者お迎え期間（保護者が子供に）
- ◇110番の家の確認・顔合わせ
 - ・災害・困ったときのよりどころ
 - ・110番の家訪問

②つくスタで学ぶ。

- ◇5年
 - ・自治会長さんたちを招待し、各地区の話聞く。
 - ・防災マップづくり

- ◇6年
 - ・防災体験：地域とともに防災キャンプ

- ◇専門家による講話
 - ・市危機管理課や防災研の活用
 - ・防災キャンプ

○茎中（金子委員発表）

- ①防災の視点で茎崎地区全体を捉える。
 - ・通学路から安全の視点で地域の情報を収集する。

- ②命を守る基礎知識
 - ・防災手帳の活用
 - ・避難訓練（地域とともに）：登下校中、休日を想定

③心の育成（周り＝地域を考えられる）

- ◇地域のよさを知る。
 - ・9年間を通したつくスタ
(産業・文化・新6号バイパス……)

(4)その他

- ・次年度の茎崎学園コミュニティ・スクール協議会について（金子委員）

令和5年度第3回荃崎学園コミュニティ・スクール 推進会議

日時：令和6年2月6日（火）

9：00～

場所：荃崎第三小学校 図書室

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 第2回会議内容の確認

4 学校評価アンケート結果について

5 授業参観

6 熟 議

テーマ

「地域に生きる児童生徒を育てるための手立て～防災教育を中心に～」

7 閉 会

第3回荃崎学園コミュニティー・スクール(CS)推進会議座席表

ホワイトボード

入口

中嶋座長

稲川副座長

中嶋 修 小林 力

二宮 君弘 金子 仁

佐野 賢一

稲川 誠一 渡部 史恵

犬田 鮎美 鈴木 剛

宮本 卓也

倉本 茂樹

間中 和美 小林 浩子

小澤 広 齋田美代子

星 雄太 小関 洋介

モニター

生涯学習推進課

傍聴席

入口

会 議 録

会議の名称		荃崎学園第2回コミュニティ・スクール推進会議		
開催日時		令和5年(2023年)9月12日(火) 開会14時30分 閉会16時30分		
開催場所		荃崎第二小学校 コンピュータ室		
事務局(担当課)		荃崎学園等、教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	中嶋委員、稲川委員、倉本委員、間中委員 二宮委員 小池委員、飯塚委員、犬田委員、小澤委員 荃崎中 : 小林校長、金子教頭、佐野教務主任 荃崎二小 : 渡部校長、鈴木教頭、宮本教務主任 荃崎三小 : 小林校長、齋田教頭、小関教務主任		
	その他	傍聴者 1名		
	事務局	澤頭生涯学習推進課長 渡邊社会教育主事 村上社会教育主事 酒井地域連携教育指導員 小島健地域連携教育指導員		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1名
非公開の場合はその理由				
議題		コミュニティ・スクールとして、地域とともに児童生徒に身に付けさせていきたい力		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会議次第	1 開 会 2 協 議 (1) 第1回会議内容の確認 (2) 学園の教育活動について ① 各校の教育活動の様子を紹介(各校の教務主任) ② 質疑応答または感想 ○各校とも地道なところから取り組んでいてとてもよい。ただ、違っ			

たアプローチからもできるのではないか。(飯塚委員)

○学校評価アンケートで、保護者の評価は比較的高い一方、児童の評価が低いのはなぜか。(倉本委員)

○児童の場合、本当はできているが謙遜して評価する傾向がある。
(小関委員)

○茎中の教科ごとのアンケートは分かりやすい。継続して欲しい。
(小池委員)

○学校と地域の双方が、それぞれの状況を理解し合っている。今後は具体的に取り組む活動について考えていきたい。(稲川委員)

○楽しいから学校に行く。そんな学校であってほしい。学力面をはじめ、具体的な子供の姿や数値をもとにすることで話し合いが充実する。9年生で学力が伸びている。まさに教育の成果である。7年生に上がる時点での向上を望みたい。(中嶋委員)

(4) 熟議

テーマ「コミュニティ・スクールとして、地域とともに児童生徒に身に付けさせていきたい力」

○A グループ (鈴木委員発表)

「地域愛」をもとに「自分で考え行動できる力」「困難を乗り越える力」「防災力」を身に付けさせたい。また、これらを結びつける「コミュニケーション力」を育成する。町探検、世代間の交流活動の充実の他、防災力を高めるために、通学路危険箇所マップの活用、防災倉庫備品の活用、サバイバル体験など地域とともに取り組みたい。

○B グループ (齋田委員発表)

「地域を知り、考え行動する力」が必要である。地域の事例は、生きた教材になる。「地域の人、地域の課題」を知り、「地域と関わる力」、「助け合う力」を育成する。つくスタが中心になる。5年の防災マップ、6年のキャリア教育において、聞く・見る・体験する実体験の活動を地域の人たちの協力を得て取り組みたい。

○C グループ (金子委員発表)

「災害時の危機対応力」を身に付けさせたい。地域防災として、地域を守る意識、ボランティア精神が必要であり、「地域愛」を育むことが重要である。そのためにも様々な人と「コミュニケーション力」「関わる力」を身に付けさせたい。まずは、「相互に知り合う」ことが必要である。清掃活動など地域とともに行う行事に取り組みたい。

○三つのグループの発表に共通するのは「地域をよく知る」「防災」。これを具体的に考えていきたい。(倉本委員)

○小学校の町探検は、本当の意味での地域を知ることにつながっていないのではないか。近所の人には知っているが、少し離れると知らない人

ばかり。学年間も同じ。「お互いを知る」という機会を設けることから始めなければ、CS としての取組の効果は薄いだろう。(小林カ委員)

○「防災」の取組を通して「地域愛」を育むか、「地域愛」を育みながら地域の「防災」を学んでいくかになると思う。この二つを両輪にして取り組めるのではないか。(飯塚委員)

○自分たちの子供の時代と今の地域はだいぶ変わってきている。「昔はよかった」ではなく、今の地域の姿を今の子供たちの目線で捉えて、つくっていくのも一つ。子供たちが自ずと自分で道を切り拓くような教育が重要ではないか。(小澤委員)

○「地域愛」「防災」をキーワードに取り組んでいきたい。

(金子委員)

(5)その他

・推進会議の今後の予定について(小林カ委員)

8 閉会

<審議内容>